

大中PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信10号

令和5年8月31日(木)
文責：岡村 康平

拘る ～いつでも・どこでも・だれにでも～

さて、前期後半がスタートしました。前期前半を通して、全校生徒は大中ブランド「傾聴」「挨拶」「時間」「掃除」を意識し、「校内生活」で「良い習慣」が構築されつつあります。前期前半開始式ではリモートでこれからの生活についての話をさせていただきました。それは、「拘る(こだわる)」ということです。「拘る」とは妥協なく徹底して追求するという意味があるそうです。具体的には、大中学生に「地域の方々にも明るく元気に挨拶」「登下校中にゴミ拾い」を全校生徒で地域に発信していきたいということです。

大中ブランド「傾聴」「挨拶」「時間」「掃除」…。全校生徒のほとんどが実践してくれています。これらは、ただ学校を良くするためや、学校の評判を良くするために頑張っているのでしょうか。将来、厳しい社会の中を乗り越えていける力を身につけ、幸せになってもらいたいという、大津中学校の先生方の思いもあり、取り組んできたことです。

前期前半、「学校内」では、ほぼ完璧にできるようになった人もいるかもしれません。先生方や学校に訪問された方々に対してはできるようになってきました。しかし、限られた相手にしかできない、限られた空間でしかできないということでは、到底、社会の厳しさには対応できないし、幸せになることもできないように思います。

拘るとは妥協なく徹底し、追求すること…。

『次の段階』…『外に目を向けなければならない』と私は考えます。

学校から離れた場所でも「いつでも・どこでも・誰にでも」…。学校で頑張っていることを態度を変えずに、周りの人を大切にできるか…それが生徒指導部、前期後半で「目指すところ」です。もっと言えば、「地域から愛される、応援される学校」を目指していきたいと思っています。

夏休み明けの初日、大津中学校に地域の方から連絡がありました。「先日の地蔵祭り終了後、大津中学校の生徒がオークス周辺のゴミ拾いを手伝ってくれました。本当に素晴らしいと思い、連絡をさせていただきました。」とのこと。それ以外にも、中央公園や帰り道にゴミ拾いをしたという生徒も多数いました。

そのゴミは全く関係のない他人が落としたのかもしれませんが、捨てたのかもしれませんが。しかし、地域のことや周りの人のことを考えて行動してくれた生徒が大津中学校にいます。本当に頭が下がる思いです。学校生活で心がけていることを地域でも当たり前実践すること。このことが将来、予測困難な社会におかれても生き抜く力だと私は思います。

同じ大中学生がこのような行動をしていると知り、何かを感じたあなたたちにも、自分自身の行動に繋げてほしいと思います。今やっていることが未来に繋がると信じ、「傾聴」「挨拶」「時間」「掃除」を学校外でも行っていきましょう。前期後半…毎日、外での機会を大切にしたいです。きっと、その一つ一つが、あなたたちの「学び」になると信じています。

「学習」の「習う」という字。「白」に「羽」と書きます。最初は誰でも学んでいない、真っ「白」な状態だが、色々な経験を重ねることで「羽」が生えてくると思います。真っ白な状態から羽が生える…それが「習う」ということであると私は思います。あなたたちがこれから先、体験したことはどんなちっぽけなことでも、「羽」の一部になります。

ちなみに、「羽」は「異なる人と出会うことで「翼」になります。それぞれの学年、地域や学校外での接していない「異なる」方々との出会いで、より大きく成長して欲しいと思います。

目標として掲げたからには、実行あるのみ。

良い意味での「拘り」を大切に。

いつでも・どこでもだれにでも。

「できない理由」を考える前に、実践をしてほしいと切に願います。

